

TZR250R

1991年 / 市販車

1980年代に端を発した日本国内のレーサーレプリカブームは、各社が競って参入し、当初は「レプリカモデル＝市販車をレーサーのイメージに近づける」という発想で、乗車姿勢や車両スペックは、あくまでも公道走行を前提とした範囲で設計されていた。

1985年発売のTZR250(1KT)は最高出力45psの新設計パラレルツインを市販車初のデルタボックスフレームに搭載し、空気力学を積極的に取り入れたフルフェアリングの採用など、無駄のない説得力のあるデザインとしてまとめられた。

二代目の1989年発売の3MAでは後方排気レイアウトの結果、シート下のエキゾーストチャンバーの存在に苦慮しながらもデザインの特徴として有機的に表現した。

そして3代目となる1991年の3XVではV型2気筒エンジンの採用によりコンパクトなデルタボックスフレームとなり、先代のグラマラスな造形から、スリークでタイトな表現へと刷新された。

1985 - TZR250 1KT



1989 - TZR250 3MA



1991 - TZR250R 3XV



COMMUNICATION
P L A Z A